

TM(テクニック)
マスターによる

電動船釣り講座



各部の名称と機能

中・深場の船釣りといえば、今や電動リールが常識です。また釣糸の進化によって強く細くなる中で、電動リールの軽量コンパクト化も進み、さらにさまざまな機能も装備するようになりました。このデジタナSLS電動丸TMシリーズには、釣人のテクニックを再現する新開発TM(テクニックマスター)機能がついています。思いどおりのさそいのテクニックをリールが覚え、リールが再現します。また水深0^{ゼロ}セット機能、船べり停止位置の設定機能も加わり、さらに充実。このリールの機能をフルに生かして新しい船釣りを堪能してください。

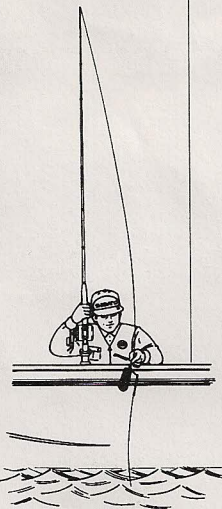
水深0^{ゼロ}セット機能

水深測定の基準となる0メートルの位置を任意に決められる機能です。釣座や船べりの高さ、仕掛けの長さによって水面までの高さは様々ですが、この機能によって水面基準、あるいは自分の好みの位置を0に指定できるわけです。シビアなタナとりが決め手となるマダイ釣りやイナダ釣りなどではとくに有効です。

※新品のラインを使う時には、ラインに延びがでますので、その時はもう一度0セットし直して下さい。船べり停止機能はセットし直す必要はありません。

船べり停止位置の設定機能

電動丸TMには電動巻き上げ時に水深が2メートルになると自動的に止まる船べり停止機能がついています。さらに止まる位置を任意に決められる機能がついています。魚を取り込みやすい位置、あるいは仕掛けを手に取りやすい位置で止められ、仕掛けの巻き込みによる竿の損傷防止ばかりでなく、取り込み時のもたつきを解消し、手返しよりスピーディにおこなえるようになります。



①学習表示

糸巻き学習(SLS)、さそい学習モードのとき点灯します。

②底・棚表示

底・棚をセットしたときや、底・棚表示スイッチが押されたときに記憶したデータとともに点灯します。

③OK表示

次の場合に点灯します。

- ゼロセット完了時
- 船べりセット完了時
- 底・棚セット時
- 糸巻き学習(SLS)完了時
- さそい学習完了時

④バー表示

さそい学習、さそいモードのときに点灯します。

⑤バー表示

船べりセットされていることを示します。

⑥バー表示

ゼロセットされていることを示します。

⑦さそいスイッチ

さそいモードにしたいとき…

3秒未満押ししてください。さそいモード解除のときも同じです。

さそい学習(入力)モードにしたいとき…

3秒以上押ししてください。

⑧底・棚表示/船べりスイッチ

記憶している水深(底・棚)を表示したいとき…

押している間、メイン表示画面に表れます。(3秒未満)

船べりセットしたいとき…

3秒以上押ししてください。(ゼロセット位置から1m以上4m未満のときセットされます)

① 学習表示

② 底・棚表示

③ OK表示

④ バー表示

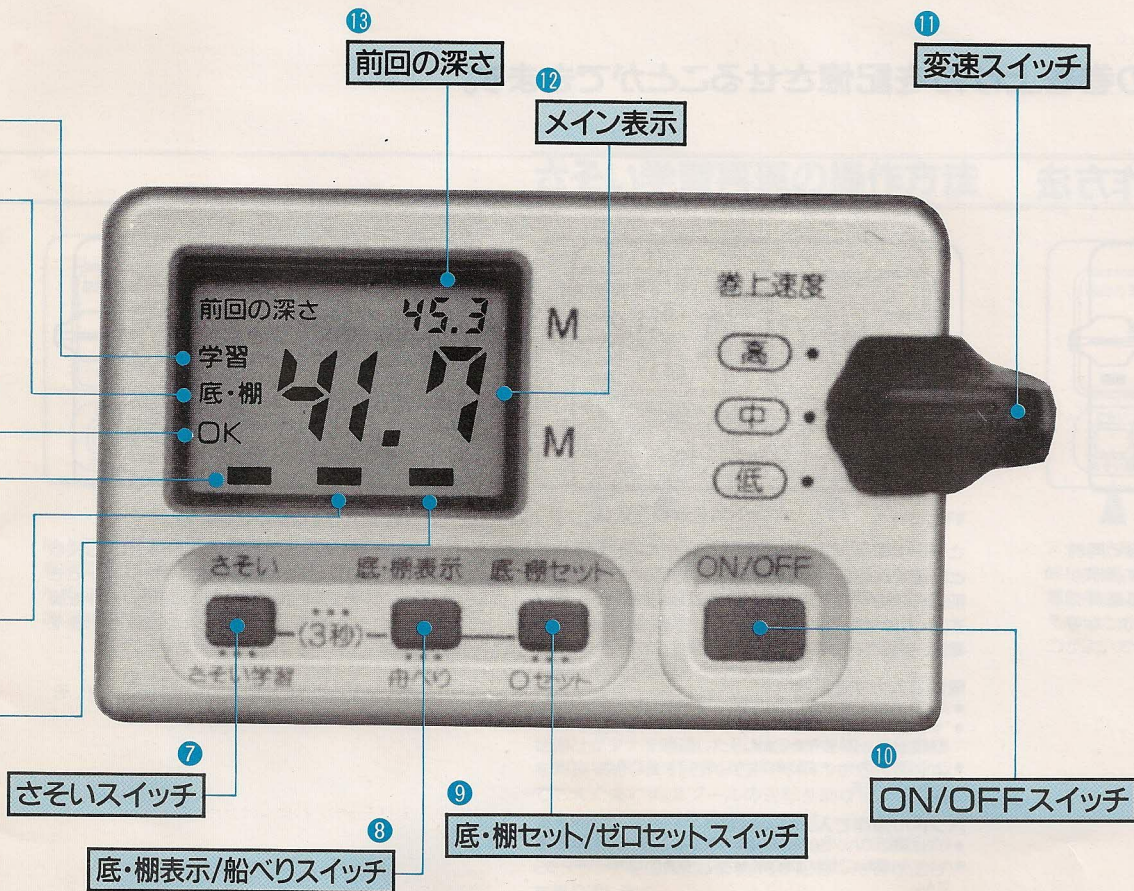
(さそい/さそい学習)

⑤ バー表示

(船べりセット)

⑥ バー表示

(ゼロセット)



⑨底・棚セット/ゼロセットスイッチ

手動で水深を記憶させたいとき…
3秒未満押ししてください。(アラーム音とともに底・棚OKが表示され、記憶したことをお知らせします)

ゼロセットしたいとき…

3秒以上押ししてください。(仕掛けを水面に合わせるなどしてゼロセットしてください)

⑩ON/OFFスイッチ

電動モーターのON、OFFに使います。1回押すごとにON、OFFが切り換わります。さそい学習モードになっているときは、押している間だけモーターが作動します。また、船べり停止後は押している間だけONに、離すとOFFになります。

⑪変速スイッチ

高速(80m/分)、中速(60m/分)、低速(40m/分)と巻き上げスピードを切り換えられます。巻き上げ中でも切り替えられます。

⑫メイン表示

SLSによって算出した正確な現在の水深を表示します。さそい学習入力時には学習する残り秒数を、また底・棚スイッチを押すと(3秒未満)記憶させた水深(底・棚)を表示します。

⑬前回の深さ

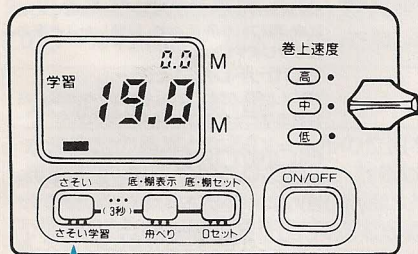
マイコンによって前回の棚を自動的に記憶、表示します。

さそい学習にモードのときは1回の巻き上げ量を表示、さそい学習完了時には学習中の全巻き上げ量を表示します。

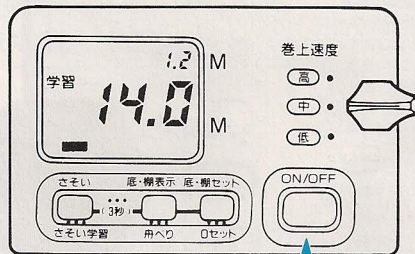
さそい学習基本操作

TMには最長19秒間の巻き上げ方を記憶させることができます。

さそい学習入力の方法



さそい学習ボタンを3秒以上押すと、ピー音と同時に学習表示、ならびに表示板下の左のバー表示が点灯します。メイン表示には19.0と学習する最長の秒数が表示されます。前回の深さ表示は0.0になります。これで入力準備完了です。



さそい学習はスプールが巻き上げ方向に回転すると記憶を開始し、カウントダウンし始めます。同時に前回の深さの窓に巻き上げた糸の長さを表示します。入力は電動でも手動でも可能です。巻き上げは電動、手動のどちらでも入力できます。

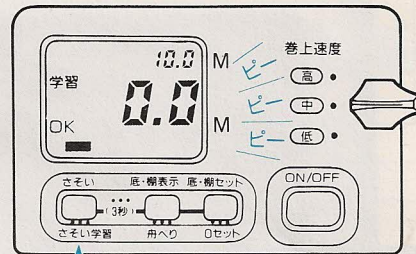
電動で入力する場合

- 変速スイッチで巻き上げ速度を選択します。
- 「学習」が表示されている時は、ON/OFFスイッチは押している間だけモーターが作動します。
- ON/OFFスイッチで記憶させたいタイミングで巻き上げ、停止を入力します。

ハンドル操作で入力する場合

- 好みの速さでハンドルを回転させます。

※ハンドル1回転に2秒以上要する超スローな巻き上げは学習しません。

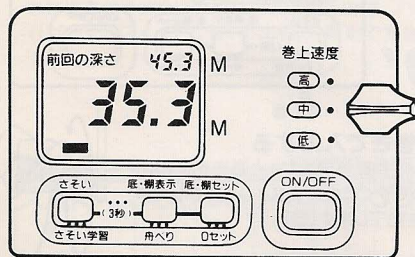


途中で入力を終えたいとき

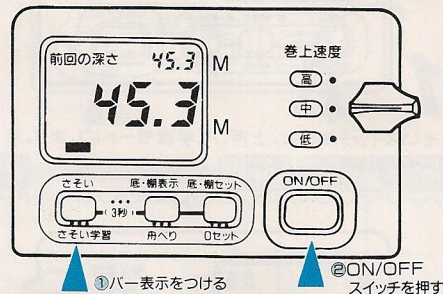
19秒たつとピー音3回で学習終了を知らせ、OK表示が点灯します。19秒の途中で入力を終えたいときは、さそいスイッチを押します。比較的短い操作を繰り返したいときは、その1回分の入力だけで記憶を終了します。

※いったんスプールが回って入力が開始されると、その後の静止状態も入力されます。

さそい学習再現の操作方法



以上で学習は完了し、その後自動的に現在の水深表示に戻ります。図ではさそい学習で10m巻かれたために表示は減っています。バー表示は点灯したままになります。



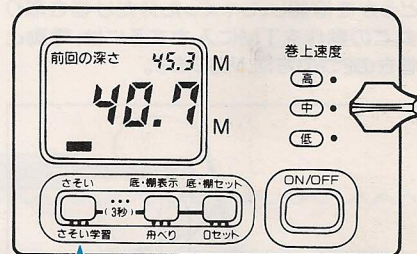
表示板下左のバー表示が点灯していることを確認して下さい。さそいモードになっていることを表わしています。点灯していない場合はさそい学習ボタンを押してください。

※ボタンを3秒以上押すと新たな入力モードになり、先に入力したデータは消去されます。

ON/OFFスイッチをONにすると、記憶した巻き上げを繰り返します。

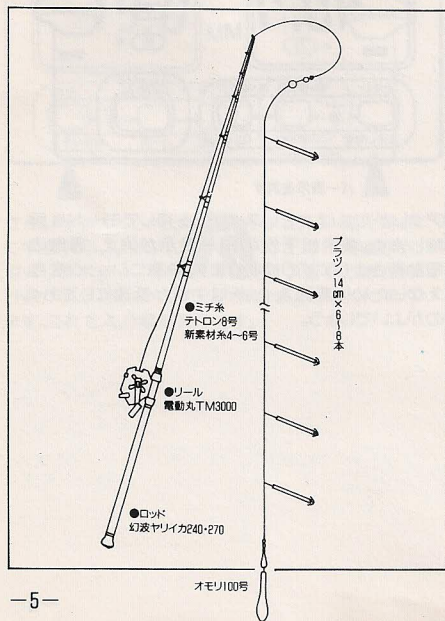
仕掛けがタナを通過したら、クラッチを切って仕掛けを再度落とします。ON/OFFスイッチONのままでも大丈夫です。スプールの逆転を助けるように働きますから、仕掛けを速く落とせます。

水深表示を確認しながら攻めたいタナに到着したら、クラッチをONにします。再び記憶した巻き上げを繰り返します。

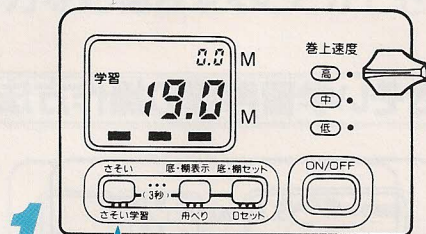


アタリがあればさそいスイッチを押してモードを解除します。表示板下左のバー表示が消え、通常の電動巻き上げに切り換わります。急激にショックを与えないために変速スイッチは中速か低速にしておくのがよいでしょう。

スルメイカの泳層はヤリイカより幅が広く、底から30mぐらいまで探ります。ヤリイカに比べると身はしっかりしており、身切れは少ないでしょう。また好奇心が強く、スピーディなアクションと派手めの色を好みます。一般的な誘い方は、小刻みな断続的しゃくりを繰り返します。竿いっぱいあおるまでに3、4回しゃくり、乗ったかどうかを確認し、しゃくった分だけ巻き取ります。この動作をTMに入力するには、電動と手巻きの2つの方法があります。

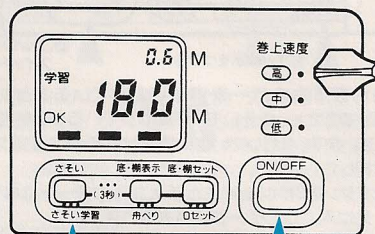


■TMに入力する



1

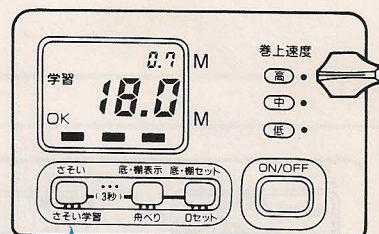
さそいスイッチを3秒以上押して学習モードにします。変速スイッチは高速にします。



2

電動で入力する

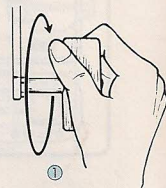
ON/OFFスイッチを0.5秒ぐらい押して①、すぐにさそいスイッチを押して学習を完了します②。キュッと巻いてすぐに切る感じです。



2'

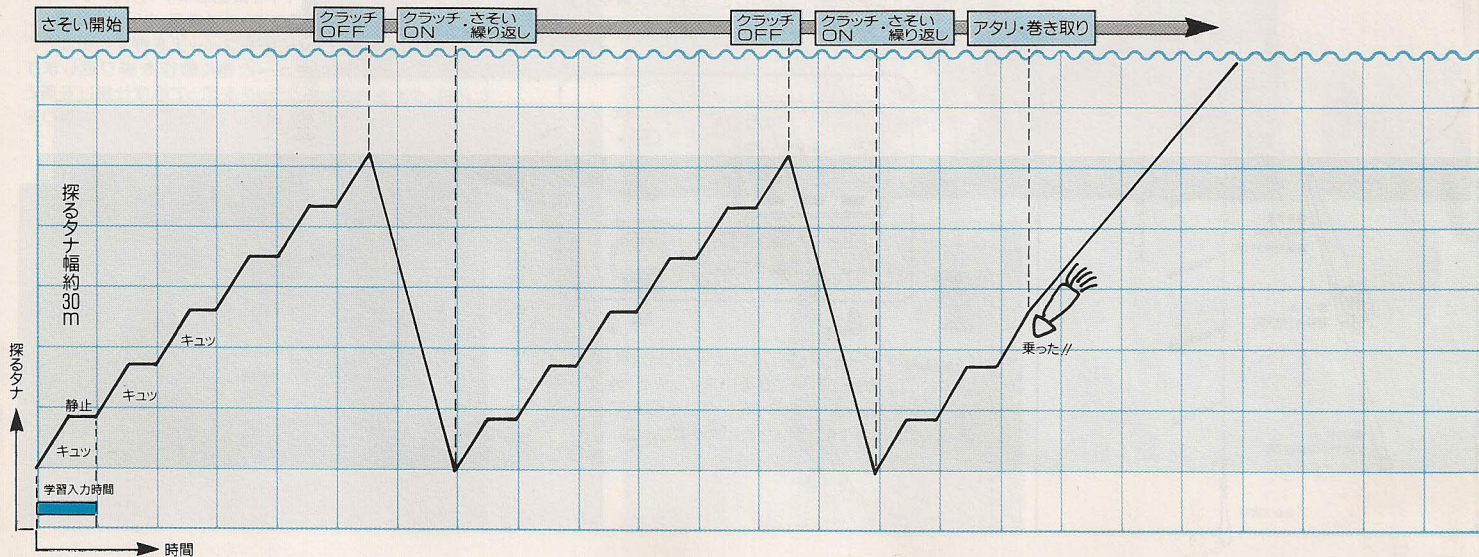
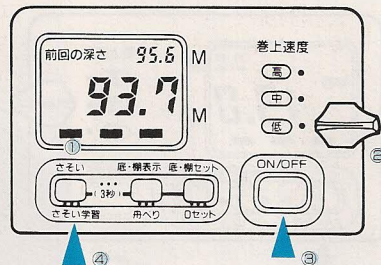
手巻きで入力する

ハンドルを1回転、サツと巻きます①。そしてすぐにさそいスイッチを押して学習を完了します②。

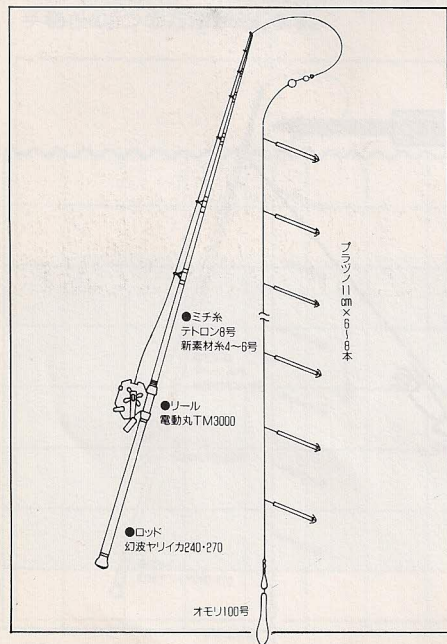


■TMで再現する

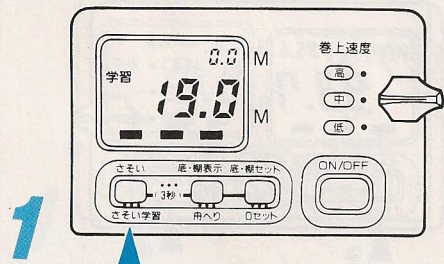
バー表示(さそいモード)を確認します(①)。アタリがあったために、変速スイッチは中速、もしくは低速にしておきます(②)。ON/OFFスイッチを押すとキュット、キュット、キュットと断続的なリズムで巻き上げます(③)。電動、もしくは手巻きで入力したままの動作を再現しますが、これは従来の手釣りのタイミングに似ています。アタリがあればさそいスイッチでモードを解除、電動で巻き上げます(④)。



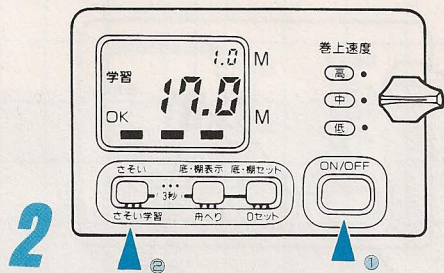
ヤリイカの泳層は通常底から10mぐらいまでです。身が軟らかく、強くしゃくったり速く巻き上げたりすると身切れの恐れがあります。一般的な誘い方は、ゆっくりめに大きく2段ぐらいしゃくり、乗ったかどうかを確認し、しゃくった分だけ巻き取ります。この動作を底から泳層いっぱいまで繰り返し、乗らなければ仕掛けを再度底まで落として同様に繰り返します。



■TMに入力する

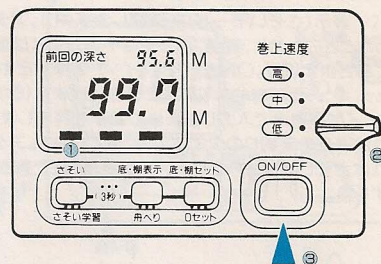


1 さそいスイッチを3秒以上押して、さそい学習モードにします。変速スイッチは中速、もしくは低速にします。

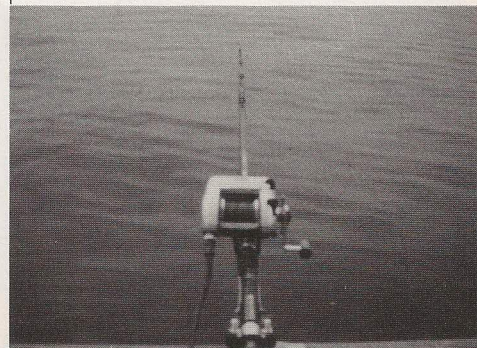


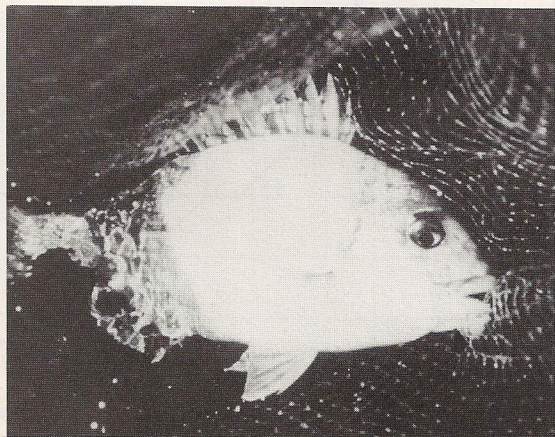
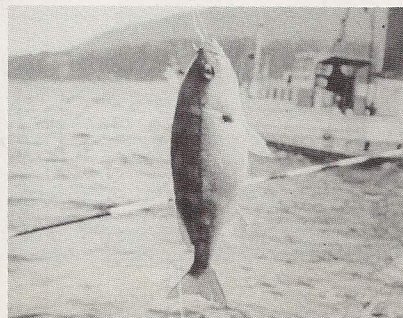
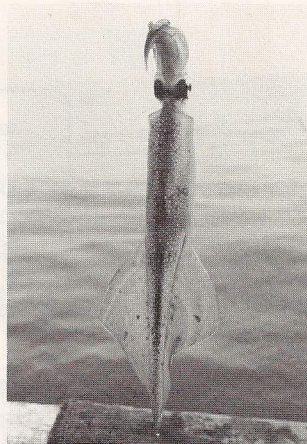
2 ON/OFFスイッチを押してキューという感じで1秒ぐらい巻き①、約0.5秒後にさそいスイッチを押して学習を完了します②。動作のタイミングはその船でよく釣っている人のパターンに合わせてとよいでしょう。

■TMで再現する

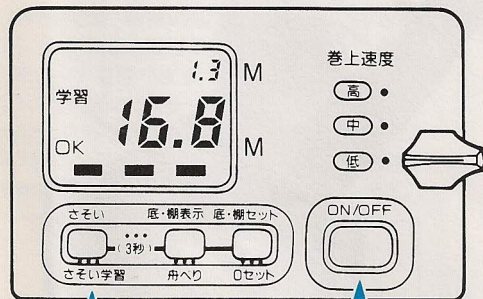


バー表示(さそいモード)を確認します①。アタリがあったときのために、変速スイッチは中速、もしくは低速にしておきます②。ON/OFFスイッチを押すとキューと巻いて止まり、またキューと巻く動作を繰り返します③。タナを過ぎたらクラッチを切って再度仕掛けを落とします。クラッチをONにするとまた上記の動作を繰り返します。





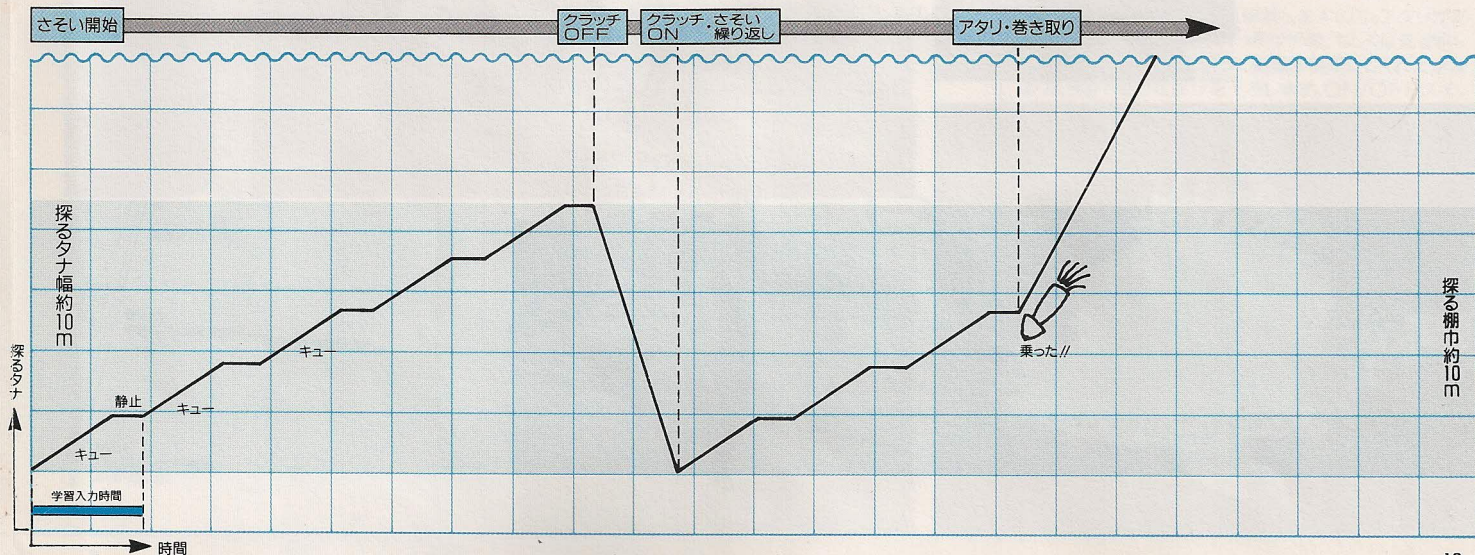
新素材三チ糸を使う場合の注意



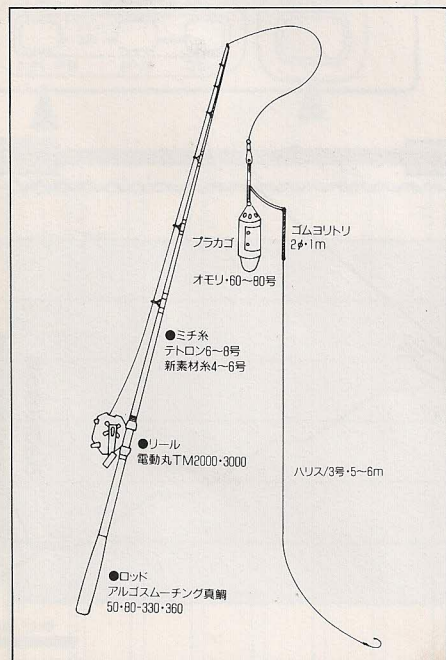
新素材糸は伸びが少ないことを特徴としています。この糸を使ってヤリイカなどを釣る場合は、素早いアクションを与えると身切れすることがあります。しゃくりのテクニックを入力するときは、ゆっくりと大きなアクションになるようにします。

※入力1. では変速スイッチを低速にします。

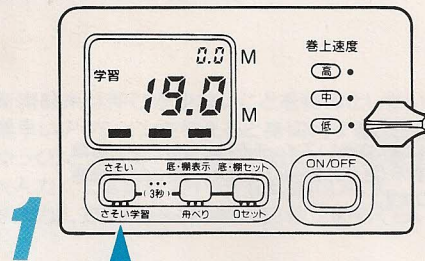
※入力2. では1.5～2秒巻いて1秒止めるぐらいがよいでしょう。キュー、キュー、という感じです。



この釣法では、船長の指示したタナでコマセを振り、その中に仕掛けを漂わせ、少しずつ巻き上げてタナを探ります。普通、タナを探るときはハリスの長さ分、5～6mを探り、その後アタリがあったタナを集中的に探ります。コマセが効いているのは5分程度です。この5分の間に約5m探るわけです。これをTMに入力します。

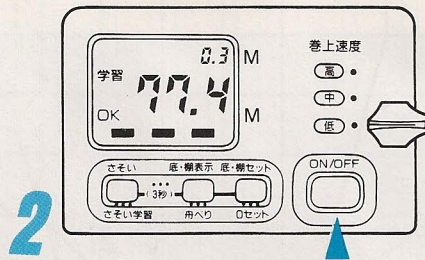


TMに入力する



1

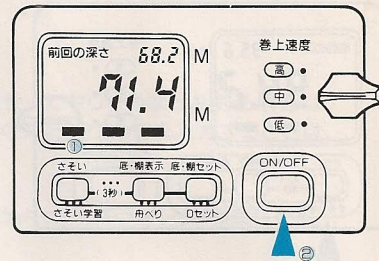
さそいスイッチを3秒以上押して学習モードにします。変速スイッチは低速にします。



2

ON/OFFスイッチを押して約30cm巻きます。手巻きで入力するのもいいでしょう。そのあとは、入力時間がなくなるまで静止状態を入力します。入力開始から19秒たつと自動的に学習完了になります。

TMで再現する

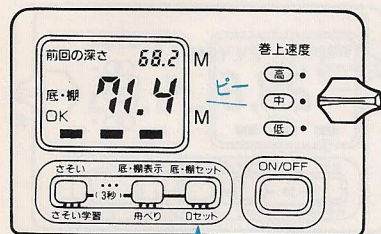


2

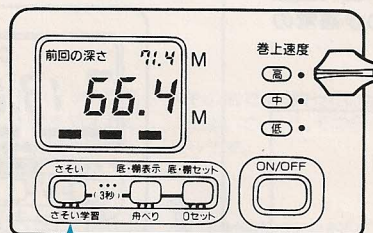
バー表示(さそいモード)を確認します(①)。アタリがあったときのために、変速スイッチは中速、もしくは低速にしておきます。クラッチを切って船長が指示してくれた水深より2.5m下まで仕掛けを下ろします。ON/OFFスイッチを押します(②)。約30cmほど巻き上げて静止します。19秒ごとに約30cm探ることになり、およそ1分で約1m、コマセが効いている5分ほどの間に約5mタナを探ることになります。つまり船長の指示する水深の±2.5mを探ることになるわけです。

タチウオのエサ釣りへの応用

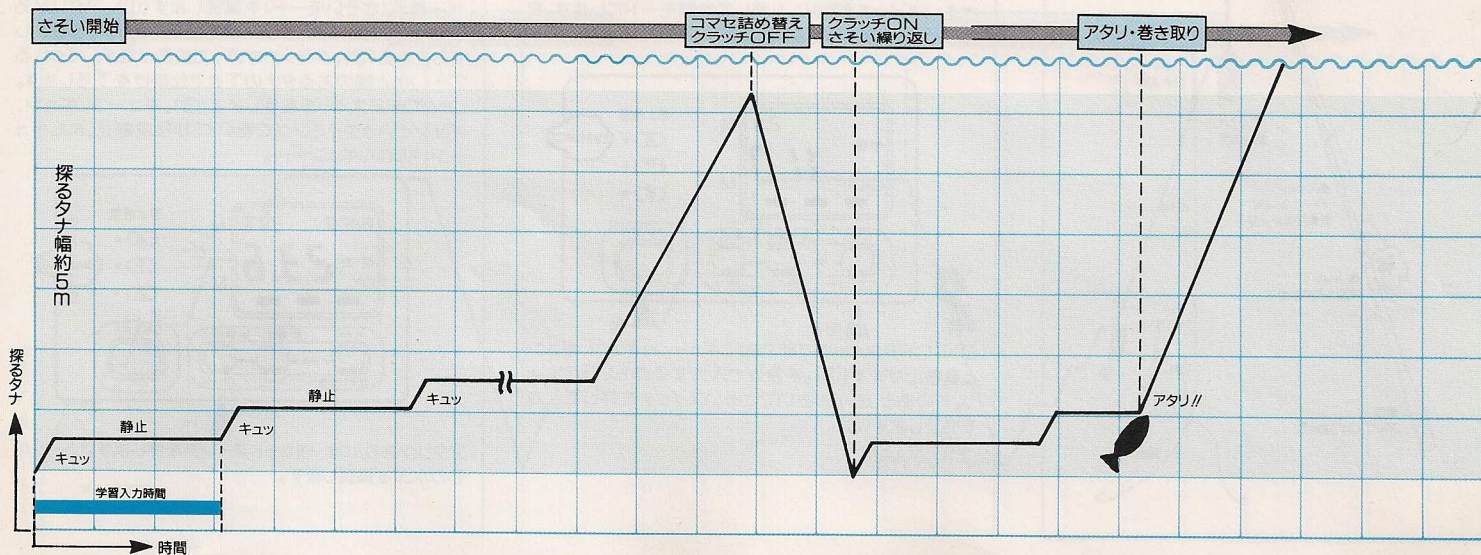
このパターンはタチウオのエサ釣りにも効果的です。その場合は1回の巻き上げを0.5～1mとマダイよりも大きくします。



アタリがあれば底・棚セットスイッチを押します(3秒未満)。リールがその水深を記憶します。記憶した水深を確認したいときは底・棚表示スイッチを押します。(3秒未満)。押している間、メイン表示に表われます。次回からはこの水深の±1mを集中的に攻めます。TMならではの効率のよい釣りが可能になるわけです。

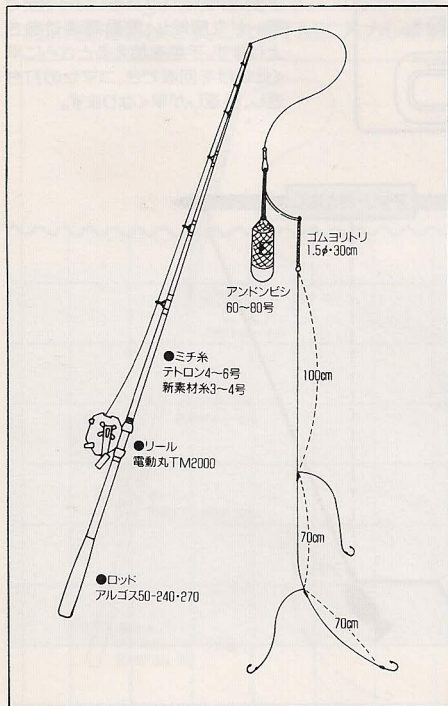


アタリがなければさそいスイッチでモードを解除し、電動高速で巻き上げます。手動を加えるとさらに早く仕掛けを回収でき、コマセの打ち返し、手返しが早くなります。

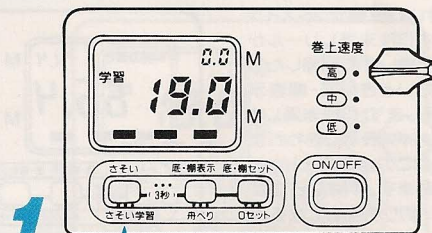


船長が指示してくれるタナでコマセを2、3回振
り、しばらく待って少し巻き上げ、また2、3回振
って、待つという動作を繰り返すのが通常の
パターンです。

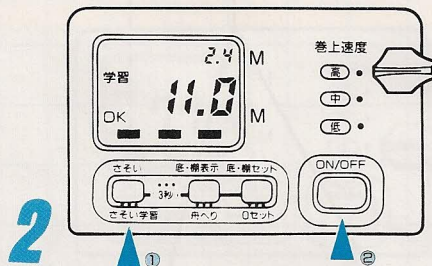
この動作をTMに入力します。



■TMに入力する

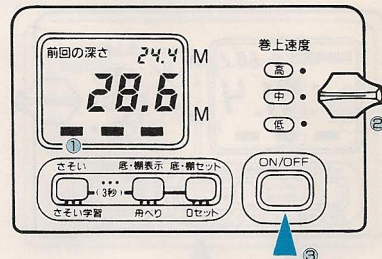


さそいスイッチを3秒以上押して学習モードにします。変
速スイッチは高速にします。

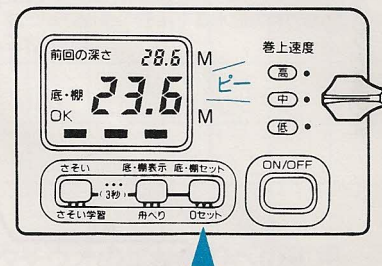


ON/OFFスイッチで断続的にギューン、ギューン、ギューン
と巻き上げます(①)。手巻きで入力するのもいいでしょ
う。そのあと、5〜6秒おいてさそいスイッチを押して入力
を完了します(②)。

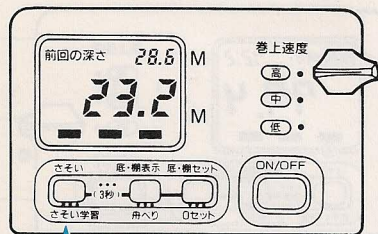
■TMで再現する



バー表示(さそいモード)を確認します(①)。アタリがあ
ったときのために变速スイッチは中速、もしくは低速に
しておきます(②)。クラッチを切って船長が指示してくる
〇〜〇mと幅のあるタナの下まで仕掛けを下ろします。
ON/OFFスイッチを押します(③)。ギューン、ギューン、
ギューンというタイミングで巻いて5秒程度静止、またギ
ューン、ギューン……。



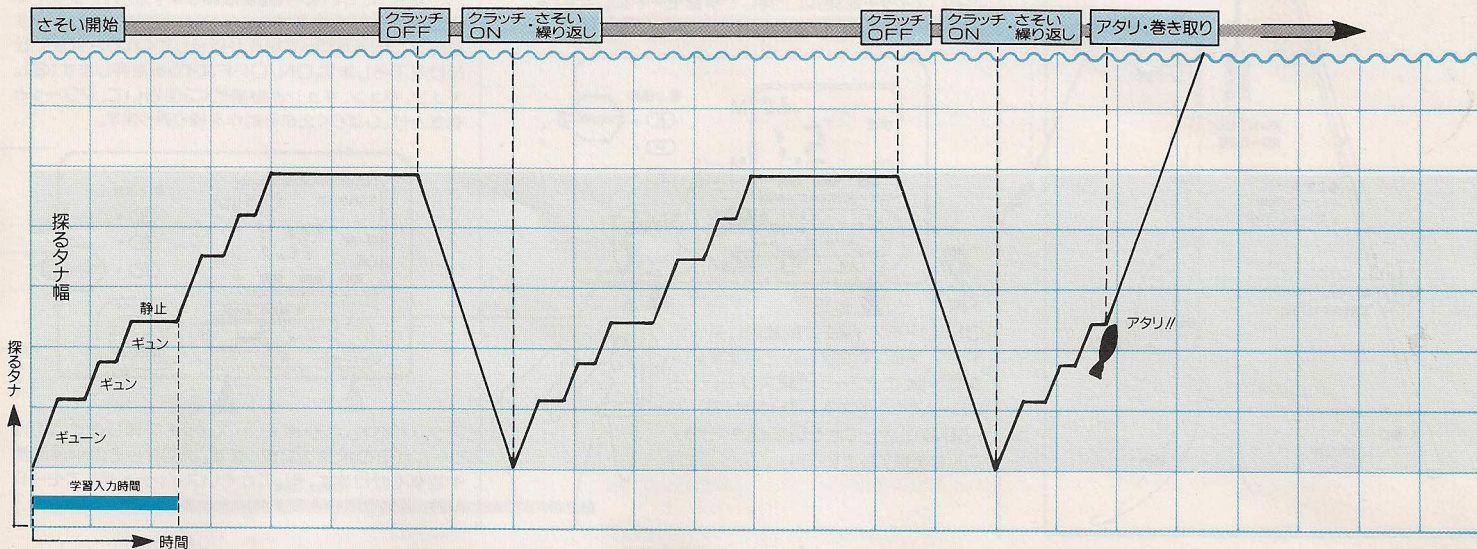
アタリがあれば底・棚セットスイッチを押します。リールが
その水深を確認します。



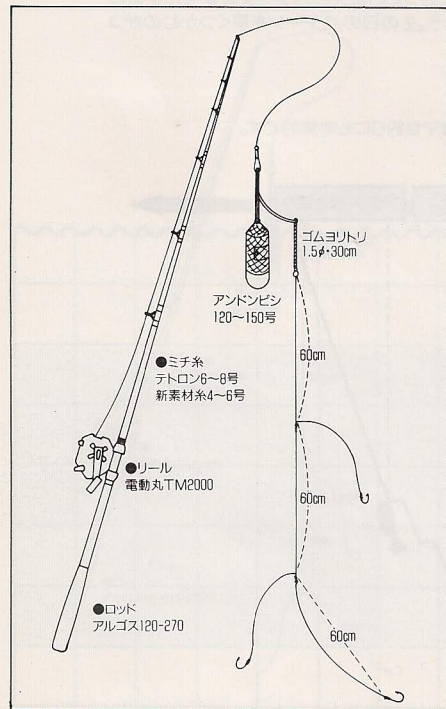
船長のいうタナでアタリがなければ、さそいスイッチでモードを解除し、電動高速で巻き上げます。手動を加えるとさらに早く仕掛けを回収でき、コマセの打ち返し、手返しになります。

※その船でよく釣っている人のパターンを参考にするのもよいでしょう。その日のパターンを早くつかむのがコツです。

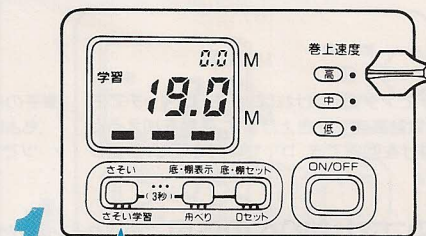
■イナダのコマセ釣りへの応用 このパターンは、イナダのコマセ釣りにも効果的です。



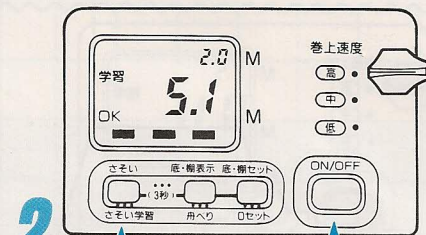
通常は船長の指示してくれるタナで3回ぐらい強くしゃくってコマセを振り、仕掛けをゆっくりと巻き上げてコマセの層の中へ仕掛けを入れます。この動作を電動と手動を併用して入力します。



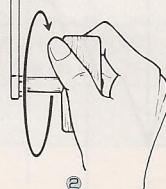
■TMに入力する



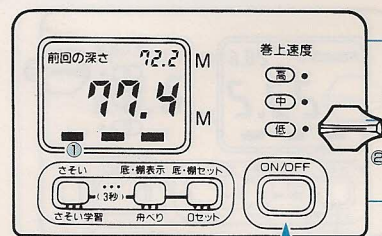
さそいスイッチを3秒以上押して学習モードにします。変速スイッチは高速にします。



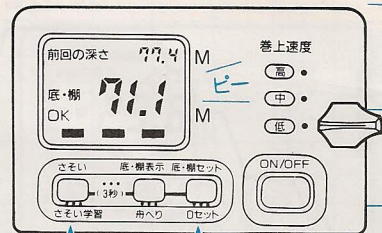
ON/OFFスイッチで断続的にギュー、ギュー、ギューと3回巻き上げます(①)。次に手動でジワッと超スロー(デッドスロー)でハンドルを1回転させ(②)、7〜8秒静止させてさそいスイッチを押して入力を完了します(③)。



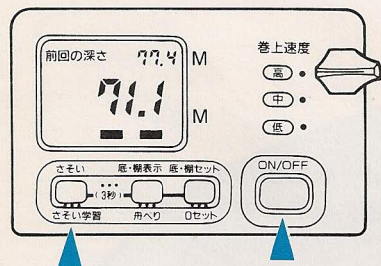
■TMで再現する



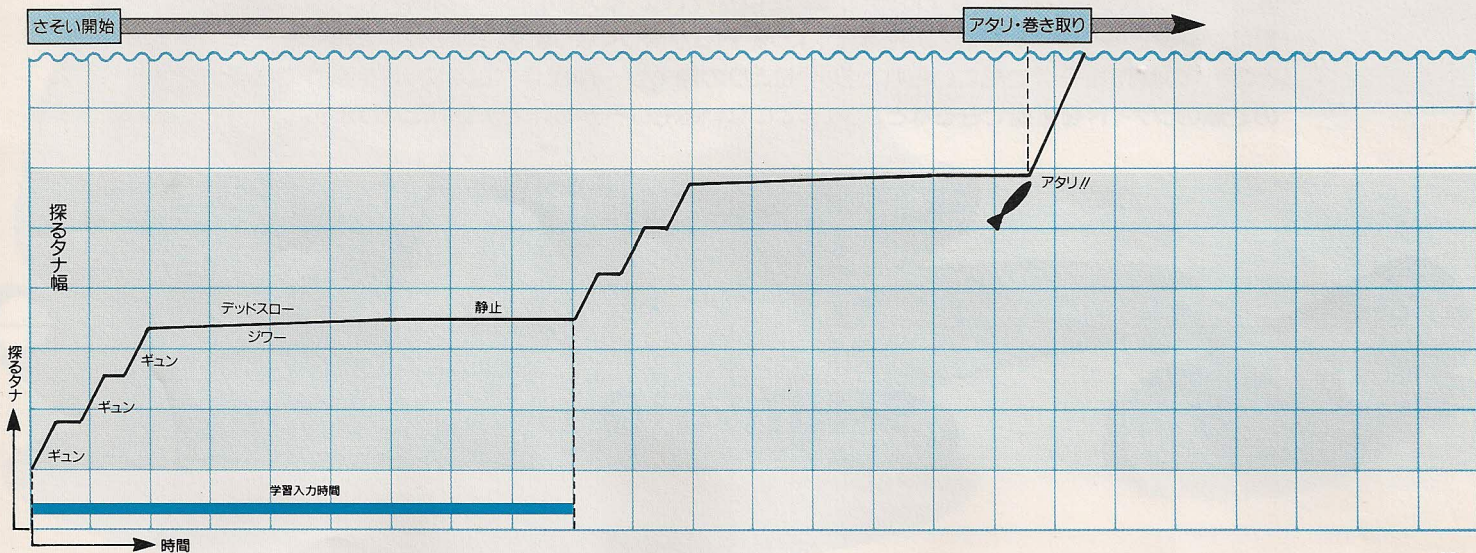
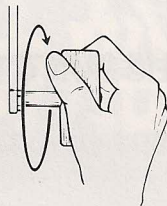
バー表示(さそいモード)を確認します(①)。アタリがあったときのために変速スイッチは低速にしておきます(②)。クラッチを切って船長が指示してくれる水深まで仕掛けを下ろします。ON/OFFスイッチを押します(③)。ギュー、ギュー、ギューと継続的に3回巻いて、ジワッと巻き上げ、しばらく止まる動作を繰り返します。



アタリがあれば底・棚セットスイッチを押します。(①)。リールがその水深を記憶します。次回からその水深に集中攻撃をかけます。そしてさそいスイッチを押してモード解除、電動で取り込みます。



アタリがなければ、さそいスイッチでモードを解除し、電動高速で巻き上げます。手動を加えるとさらに早く仕掛けを回収でき、コマセの打ち返し、手返しが早くなります。



■TMの可能性は無限です。

ここにご紹介した応用例以外にも、TMは無限の可能性を持っています。ウィーリーを使うハナダイのシャクリ釣り、イナダやワラサのカッタクリ釣り、スズキのカッタクリ釣りなどには簡単に応用できます。

自分自身のパターンをつくり上げたり、その日の釣れている人のパターンを参考にすれば、釣果はグーンと多くなります。疲れ知らずで、より船釣りが楽しくなります。また、置竿で電動リールとロッドの動作をそばで見えたり、やりとりの際もリール操作なしでロッドを操作できるので魚のファイトを堪能できるなど、これまでにないおもしろみも味わっていただけます。

SHIMANO